



## 祝! 学校論文「教育委員会賞」受賞

学校の教育活動をまとめた教育論文を熊本市教育センターに応募したところ、高い評価を受けて「教育委員会賞」を受賞しました。審査評には、「教育委員会賞おめでとうございます。道徳的実践力を育む価値ある実践研究です。貴校の奨励点は、学校マスコットキャラクターを活用し、学級目標から個人の目標へ全ての学校生活で意識化を図った点です。授業後、実践後に子どもたちが振り返り、自身の変容を自覚することができました。道徳授業後の子どもの意識を見える化して授業評価に用いる新しい試みや、全校で話合いの仕方を共有することは大変有意義であり、他校の参考になります。」と書かれており、本校の取り組みに対して高い評価を受けています。



市教育センター長から表彰状を受け取る本校の井手研究部長

今回の論文で主張したかったことは、帯西の実践の仕方、子供たちの自己有用感を高めることができるということです。「わくわく通信100号」でも書いたように、学校では、様々な人間関係が生まれてきます。そうした関わりを通して、進んで協力できた、自分から働きかけができた、誰かの役に立つことができた、という集団の一員としての自信や誇りの獲得が課題となります。そういう意味でも「心のパズル」という共通の評価ツールで、大人が子供を、あるいは子供同士が認め合いながら、自己有用感を獲得していくという視点は、子供たちの成長においてとても重要なのです。

今後も、教職員と子供たち、そして保護者の皆様と共通理解・共通実践をしながら、教育活動の質を上げ、他校にも実践の輪を広げていきたいと思っています。

## ●ひこうきぐも✈ vol.17

ブリュッセルから、ドイツのベルリンへ夜行列車を使って向かおうとしたときに、その事件は起こりました。ドイツ行きの夜行列車に乗り込むと、旅の疲れからか、寝台車輻の中で、すぐに眠りについてしまいました。夜中に目を覚ますと列車は停車していて、何やら外で作業をしている様子でしたが、気にも留めず再び寝入りました。

朝起きると、窓の外が明るいので思わず景色を眺めてみると、何と一面銀世界です。「ああ、ドイツでは雪が降っているんだなあ。」と思い、ワークブーツにミンクオイルをたっぷり塗り込み、雪の舞うベルリンに降り立つ準備をしていました。しばらくすると、国境警備員が乗り込んで来て、どこで降りるつもりなのか聞かれたので、ベルリンだと平然と言ったところ、二人の警備員は、お互いに顔を見合わせ、不思議そうな顔をして私を見ていました。

その理由を知るには、そう時間はかかりませんでした。何と列車はベルリンと方向違いのデンマークのコペンハーゲンに着いていたのです。私はその時点までは、ヨーロッパの鉄道の旅にも慣れ、時刻表を見ながらの旅なんて楽勝、楽勝と思っていました。しかし、その慢心に大きな落とし穴があったのです。夜中に列車は切り離されていて、前の車輻はドイツへ、そして後ろの車輻はデンマークへと向かったのです。私が目覚めた夜中の作業は、車輻切り離しの作業だったのです。注意深くトーマスクック時刻表を見ると、そこに小さく〈途中車輻切り離し有り〉の注意書きが(もちろん英語で)書いてありました。

※「ひこうきぐも」は、あくまでも荒木が旅をした当時、約30年前の街の様子です。現在とは状況に違いがあることをご了承ください。